

会 議 記 録					
会議の名称	平和人権対策特別委員会			会議場所	第1委員会室
				担当職員	池永 菜穂子
日時	平成23年12月15日（木曜日）		開議	午後	3時 24分
			閉議	午後	4時 39分
出席委員	◎酒井 ○齊藤 並河 井上 中澤 木曾				
執行機関出席者	久世生涯学習部長、小林人権啓発課長				
事務局出席者	八木主任、池永				
傍聴	可・否	市民 0名	報道関係者 0名	議員 0名（ ）	

会 議 の 概 要

1 開議

2 所管事項調査

ヒューマンフェスタについて（生涯学習部説明、質疑）

<酒井委員長>

13日に犯罪被害者支援についての政策提言を提出した。自治防災課は経済的支援を検討中とのことであった。川本先生の講演会は自治防災課にも声をかける。一般公開なので、募集方法が決まったら各自でも広報いただきたい。

ヒューマンフェスタについて、理事者入室までにどのような方向性で話を聞くか話し合っておきたい。事実関係を明らかにし、不明点を理事者に聞く必要があるということで、理事者出席を要請するに至った。なお、フリマは偶然だったとのことである。前はイベントの企画内容の話が多かったが、もう少し本質的な話がしたい。どんな切り口が考えられるか。例えば費用と参加者数の関係など、手元配付の表を見て気付いたことがあれば。

<並河委員>

表の金額はヒューマンフェスタだけのものか、ゆうあいフォーラムも含んだものか。

<酒井委員長>

聞かなければ分からないが、おそらく含んでいない。どういう切り口で何を目的に話を聞くか。啓発事業としてのヒューマンフェスタの有効性や同日開催の効果等があると思うが。

<井上委員>

同日開催による効果や問題点を聞きたい。単に箱の中に一緒に入れたということなのかどうか。

<酒井委員長>

統一した全体の企画となっていたのかということか。

<井上委員>

何かテーマを決め、お互いに会議を重ねて一つの方向性を持って行ったのか、それとも1つの箱に2つのものをバラバラと入れたのか。

<中澤委員>

理事者にはどういう依頼をし、どういう目的で呼んだのか。

<酒井委員長>

各自が思いついたことを質問するのではなく、まず何がしたくて質問をするのかを決めたおいた方が良い。

<中澤委員>

初めて同日開催となったので、趣旨を含めて説明をしてもらうことで理事者は了解しているのでは。

<齊藤副委員長>

園部の人から聞いて参加したと亀岡の人が言っていた。アピールの仕方に問題があるのではないかと。同日開催でも混雑ではなく、規模はちょうど良い。

<酒井委員長>

広報に問題があったということか。イベント自体はこのままで良いか。

<齊藤副委員長>

ゆうあいフォーラムが賑わっており、失敗とは思えない。

<酒井委員長>

企画は良いが広報に問題がある、同日開催は良かった、ということか。

<齊藤副委員長>

そうである。

<井上委員>

駐車場が一杯であった。駐車場確保の配慮が必要。

<酒井委員長>

啓発事業としての有効性はこれで良いか。ヒューマンフェスタではなく別の事業ということは考えていないか。法務省が人権啓発フェスティバルを毎年2回開催している。亀岡市と似たような内容だが、費用対効果の観点から来年度以降のあり方を検討するとしている。国がイベントのあり方に疑問を持っている中、楽しく気軽に色々な人が参加できるような亀岡市のイベントは、これで良いと考えるか。

<井上委員>

来場者が人権について目的意識を持って来るためのものなのか、イベント目的なのかにかかってくる。今回はイベント目的で来て、興味がある人は他も見えていくようなやり方であった。それで良いのかということもあるが、ただ、難しい話がメインになると足が遠のくのが事実である。

<酒井委員長>

啓発の方法として有効かどうか。法務省の資料には、対象者の発達段階に応じた啓発が必要なので、一気にイベントで行うよりは家庭や地域社会で自分の問題として考えられるような具体的な事例での啓発や、講演を聞くだけ・見るだけではなく、参加・体験型の啓発の方が良いのではないかと書かれていた。色々な人権啓発の方法があると思うがどうか。

<並河委員>

このようなイベントは、1年間の活動を振り返り今後のことを考える機会になる。これを1回すれば全てがうまくいくという訳ではなく、背景には、このような活動を1年通してやっている人がいる。お金はかかるが、このような事業は続けるべきである。たまたま来た人がこれをきっかけに人権を考えることもある。

<酒井委員長>

ゆうあいフォーラムの運営委員にとっては日々の活動の振り返りとなるが、ヒューマンフェスタはそのような形ではない。人が多く来れば良いだけなら、お金をかけ

て有名な人を呼べば良いということになる。

<並河委員>

亀岡市の管理職にも女性の登用が進んでいない。問題は一気に解決しないので、このような事業は無くさずに継続して取り組んでいくことが必要である。

<酒井委員長>

無くすという話ではないが、どういう切り口で理事者に話を聞いていくか。

<中澤委員>

意見を取りまとめしなくても、個々に話を聞くので良いのでは。

<並河委員>

それぞれの考えがあるので、統一は不要では。

<中澤委員>

理事者に事前に伝えるために意見を取りまとめるなら良いが、今の段階では個々に聞いていけば良いのではないか。

<酒井委員長>

意見をまとめるのではなく聞く項目をまとめている。同日開催の効果、統一性、人権啓発の趣旨が伝わっているのか、等を聞く。企画の内容の細かいことを聞くのではなく、本質的なことが聞きたかったので切り口を挙げていただいた。概ね意見が出たので、理事者に入室していただく。

－理事者入室－

3 : 4 8

<生涯学習部長 あいさつ>

・前回の委員会の意見をまとめたものを拝見した。様々な考えがあり参考にしたい。

<人権啓発課長>

・人権の事業は、市民には「難しく参加しにくい」意識があるが、子どもから高齢者までが気軽に参加し、少しでも人権を理解してもらえればという趣旨で開催している。

・ヒューマンフェスタは行政が中心であり、ゆうあいフォーラムは市民の企画運営委員会が行政と共同で行っている。同日開催は試行的に行った。

<井上委員>

①合同の企画会議を行い、統一したテーマを設けたのか。それとも別々だったのか。

②駐車場の配慮が必要だったのでは。

<人権啓発課長>

①企画はバラバラで行った。先日ゆうあいフォーラムの反省会を行ったが、運営委員会から、来年は最初から行政と一緒にやりたいという話が出た。②職員マイカー駐車場は開放していた。ガレリアは警備員と委託で対応したが、職員の配置はなかった。今年はフリマで人が多かったこともあるが、来年以降検討する。

<井上委員>

とりあえず集客して興味のあるものに参加してもらうのか、テーマを絞って来てもらうのか、どちらを主としているのか。

<人権啓発課長>

ブース毎にテーマはあったが細かい広報ができていなかった。とりあえず来てもらい、何か感じてもらえればと考えている。

<井上委員>

企画段階から一緒にした方が良いと考える。

<中澤委員>

①当初予算では別々に予算を組んでいた。同日開催になった経緯は。②アンケートを含めた総括は。

<人権啓発課長>

①会場が23日しか押さえられなかった関係で、ゆうあいフォーラムの運営委員会に相談し同日開催となった。②集計中である。

<中澤委員>

物理的なことで同日開催になったということか。

<人権啓発課長>

そうである。経費削減もあり、同日開催にしたいという思いもあった。

<中澤委員>

毎年総括を行う中で、同日開催にしたいという話もあったのか。

<人権啓発課長>

それぞれ積み重ねた実績があり、一緒にすることへの抵抗もあった。ただ、昨年ゆうあいフォーラムは参加者が少なく、1人でも多く来てもらう工夫が必要だという話もあった。

<井上委員>

①来年も同日開催になるのか。②同日開催で良かった点は。

<人権啓発課長>

①同日開催にしたい。運営委員会でも同意見が出た。②参加者が多かったこと。フリマだから多かった面もあるが、他のブースにも流れており、結果としては良かった。ただ、ブースが分かりにくかったので、大きなボードで案内する等の工夫が必要であった。

<酒井委員長>

資料に書かれている開催費用はヒューマンフェスタだけの金額か。

<人権啓発課長>

そうである。本年の分もヒューマンフェスタのみの予算額である。

ガレリアの使用料は、以下のとおり。

平成22年度：ヒューマンフェスタ（11月21日）79万8724円、
ゆうあいフォーラム（11月20日）35万3167円。
合計 115万1891円

平成23年度：ヒューマンフェスタ分：55万1985円、

ゆうあいフォーラム分：37万5501円

合計 92万7486円

<齊藤副委員長>

同日開催で良かった。ヒューマンフェスタとゆうあいフォーラム相互に人が流れるような時間配分になっていた。今後も連携することによって相乗効果となるのではないか。

<中澤委員>

会場費だけでなく、ゆうあいフォーラムの過去3年のトータル経費は。

<人権啓発課長>

手元に資料がない。

<酒井委員長>

後日、資料の提出を。人権啓発の趣旨は伝わっていたのかということについて意見があれば。その日限りではなかったか。

<齊藤副委員長>

趣旨はおぼろげに伝われば良い。一般の人が対象なので、固くやらず自然に分かってもらう形で良いのでは。

<並河委員>

ゆうあいの運営委員会も当初は経費削減を心配しておられたが、色々な所に行って交流もでき、結果的には良かったと言われていた。知り合いもイベント目的で来られたが、色々考える機会になったようであった。人権と男女共同参画の趣旨が貫かれていればそれで良い。

<木曾委員長>

同日開催で、予算や要員、全体的な盛り上がりはどう感じたか。

<生涯学習部長>

ゆうあいの運営委員会も当初は別々の開催を望んでおられたが、多くの人が来られて同日開催で良かったと言っておられた。参加者にとっても、多くの選択肢の中から自分に関心のあることを選べたのがメリットであった。立派なことを掲げるより、多くの人にまず来てもらわなければならない。その中で良かったと感じてもらうのが収穫である。パンフレットや展示、会場レイアウト等の工夫は必要だが、今後、より良くしていける自信を持った。

<人権啓発課長>

ヒューマンフェスタのスタッフがゆうあいフォーラムも含めた総合受付をしたことにより、ゆうあいの運営委員が他のブースに携わることができ、楽しんでおられた。企画した者が楽しまないと楽しくない。ただ、2階に行く人が少ないので、次回は2階にも人が行くような仕掛けをしていきたい。

<木曾委員>

①どこで何をやっているのか分かりにくかった。特に2階。立札だけでは分からないので工夫が必要。入口が色々あるので、ボランティアを含め誘導・案内要員を考える必要がある。②フリマがあったからこそ盛り上がった部分もある。今後の課題である。③年配の人が座る場所がなかった。展示場所等に椅子の配慮が必要だった。

<井上委員>

飲食コーナーがあっても良かったのでは。

<人権啓発課長>

①③1階にカレーと炊き込みご飯があったが、すぐ完売した。運営委員からも座って飲食するスペースが必要だとの指摘があった。今回は震災の関係でパネルが多くスペースが少なかったが、次回はもっとスペースを使えるはずである。もう少し分かりやすく案内ができるように工夫したい。

<中澤委員>

ヒューマンフェスタとゆうあいフォーラムは狙いが別であるが、今後も別々の形となるのか、それとも、もう少しすり合わせをしていくのか。それぞれがこだわりを持ってやるなら、ドッキングするには工夫が必要。

<人権啓発課長>

今回初めての試みであったので、直すところは色々ある。名前を統一することも考えられるが、ゆうあいには「Y o u & I」の歌もある。個々の特性を活かし、市民には分かりやすくなる方向で考えたい。

<井上委員>

αステーションに人が少なかった。かめまるとしんがくんのキャラクターショー等も良いと考える。

<酒井委員長>

最後に何かあれば。

<生涯学習部長>

いただいた意見は来年度以降に活かし、より多くの人に来てもらい、何か持って帰ってもらえるようなイベントにしたい。

－理事者退室－

4 : 3 1

3 次回の予定について

<酒井委員長>

同日開催で良かったと理事者も話していた。具体的なあり方についての意見が出たが、これでヒューマンフェスタについての取り組みは終了ということで良いか。

－了承－

<齊藤副委員長>

部落差別・人権侵害報告集会に参加した報告を行う。山科区の小学校での事例、大阪府の宅建業者の事例の紹介があった。まだまだ差別は残っていると感じた。

<木曾委員>

大阪知事選・市長選で橋下市長の親の話を週刊誌が書いており、非常に残念である。まだまだ実態は厳しい。

<井上委員>

記事は残念に思ったが、記事を不快に感じた人も多く、まんざら一般の人の感覚は間違っておらずメディアの感覚が時代錯誤であると感じた。

<酒井委員長>

ヒューマンフェスタはこのままの方向で充実させていくということであるが、次回のテーマはどうか。

<齊藤副委員長>

犯罪被害者支援の条例の推移を見ながら検討すれば良いのではないか。

<中澤委員>

パブリックコメントが出た時点で検討すれば良い。

<酒井委員長>

では、犯罪被害者の条例の関係で具体的に議論する必要が出てから開催を決めることとする。

4 閉議

散会 4 : 3 9